

# 平成一九年度 決算の概要

今回の定例会に、平成一九年度一般会計決算及び五つの特別会計決算が提出されました。本会議では、一般会計決算については一八名で構成する決算審査特別委員会を設置し付託され、九月九日から一二日まで行われた。特別会計決算については、建設環境委員会、市民厚生委員会に付託され、それぞれ原案のとおり認定されました。

## 一般会計決算の審査から

どのような  
収納努力をしたのか

問 市民税等の不納欠損額が減っている。前年度と比べてどのような収納努力をしたのか、またそれによりどの程度の収入増となったのか伺いたい。

答 新たにシルバー人材センターによる納税を呼びかける電話催告、タクシーロク方式による自動車、オートバイ等の動産の差し押え、また、アウトバス効果もねらったオートバイ等のインターネット公売を行っており、さまざまな施策により収納率は上がっているが、滞納繰越分の収入額は前年に比べて微減となっている。

地方交付税と市税減額  
市の財政的判断は

問 地方交付税が当初

指定管理者制度  
導入後のメリットは

問 学童クラブ、児童

答 市税と交付税の関係では、市税が減額すれば交付税が増加するの本来の制度の仕組みだが、両方とも減少というのが三位一体の改革以来続いており、今回の普通交付税の減少も基準財政需要額が減ったもので、昨年度より一億三二〇〇万円ほど減額しているが、市税の収入は減少傾向にあり、両方とも減少傾向にあるという事態で、財政上は非常に大変な状況にあると判断している。

館が指定管理者制度を導入して一年経過したが、導入によるメリットと、財政面の評価など子どもたちが元気な方向に向かっているのか伺いたい。

答 毎月児童館、学童クラブの責任者から報告があり、一生懸命地域に溶け込もうとする姿勢が見受けられる。まだ一年目ではあるが、徐々に地域に馴染んできている状況が伺え、開館日も拡大して子ども居場所づくりにという点では、かなり効果が上がっていると考えている。また財政面でも約一〇八一万円の経費削減となった。今後いろいろな遊びや勉強を通じて、子どもたちには元気になってもらいたいと考えている。

協働ハンドブック  
発行後の反響は

問 職員の協働に対する理解促進を図るための手引き書として「協働のハンドブック」を作成したが、発行してどうだったのか、お聞きしたい。

答 「協働」とは何かなど、実践例として七夕まつり等を取り入れ作成した。各課に一名配属している協働事業推進員が作成に携わっていることで共通認識が図れたものと思う。また、本年には課長補佐以下の職員を対象に、周知徹底させるため

有効活用研修を開催している。

情報システム経費調査  
分析委託の効果は

問 情報システム経費調査分析委託料二九四万円の期待される結果と効果は何か。また、委託先は業者名でなく個人名だが、どのような力量をお持ちの方か伺いたい。

答 ITコーディネーター協会から推薦を受けた方で、中央官庁も含め自治体での活動経験をお持ちの中小企業診断士、プロジェクトマネージャの資格を有する方である。調査は、IT経費が増大していく中、経費の適正化・削減の方策について提言を期待したものが、特効薬のようなものは即出て来なかったが、計画をつくる段階でシステムの詰めを甘くしない取り組みが必要であると指摘を受けた。

ふっさつ子の広場  
半年間の成果は

問 一九年度の秋に始まった六小のふっさつ子の広場の半年間の成果について伺いたい。

答 延べ五〇六六名、一日平均四三・四人の児童が参加し、延べ三七四名の地域のボランティアの参加で完全な見守りのもと子ども同士、地域の人々との交流も含め、放

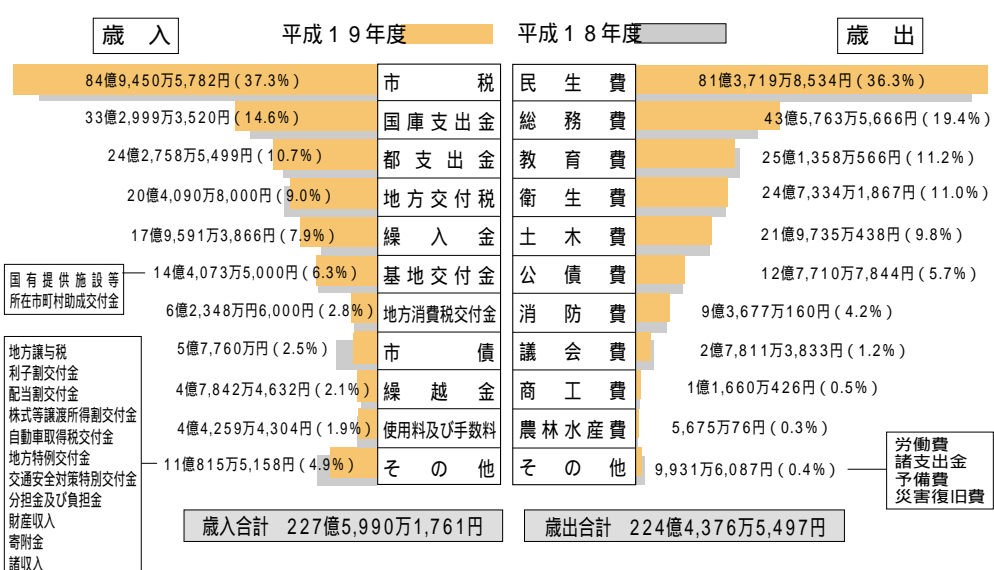


▲平成19年度一般会計決算は起立多数で認定

### 平成19年度 各会計決算額

会計区分	歳入決算額	歳出決算額	残額(翌年度繰越額)
一般会計	227億5,990万1,761円	224億4,376万5,497円	3億1,613万6,264円
特別会計			
国民健康保険特別会計	57億5,488万 293円	58億9,347万8,100円	▲1億3,859万7,807円
老人保健医療特別会計	31億6,569万7,385円	31億5,522万2,185円	1,047万5,200円
介護保険特別会計	27億3,907万5,200円	26億4,828万2,806円	9,079万2,394円
下水道事業会計	31億5,057万5,200円	30億7,310万4,471円	7,747万 729円
受託水道事業会計	3億1,340万7,806円	3億1,340万7,806円	0円
総合計	378億8,353万7,645円	375億2,726万 865円	3億5,627万6,780円

### 平成19年度 一般会計決算の款別内訳



## 決算討論

本会議において、次の討論がありました。平成一九年度福生市一般会計決算認定について

は一万七四七四円で三〇・〇三%の補助率、対象者は五三九人。扶助費は全額市負担で、対象者は一三人。中学校は一人平均四万九六四五円のうち保護者負担は三万四三四五円で三〇・八二%の補助率、対象者は四八一人。扶助費は市が全額負担しており、対象者は一〇二人である。

賛成 保育園民営化や指定管理者制度導入の実施、電話催告事業などで積極的な市税収納対策にも取り組んでいるが、未納問題にはなお一層の努力をお願いし、賛成する。

賛成 多大な職員

反対 予算編成時の市長の課題認識を福生市のグランドデザイン、産業振興策、後年度負担、協働などの観点から複眼的に見て、ある程度の評価をしてしかるべき。

賛成 多くの職員が努力や工夫があったことは確認したが、この決算が住民いじめの予算編成であることが明らかで認められるものではないので、反対する。

賛成 多くの職員が努力や工夫があったことは確認したが、この決算が住民いじめの予算編成であることが明らかで認められるものではないので、反対する。

賛成 多くの職員が努力や工夫があったことは確認したが、この決算が住民いじめの予算編成であることが明らかで認められるものではないので、反対する。